

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2270400167
法人名	NPO法人 三山ホーム
事業所名	グループホーム 三山ホーム伊東
所在地 (電話番号)	静岡県伊東市八幡野 1261-14 0557-51-1012
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年3月18日(火)

【情報提供票より】(平成19年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10人, 非常勤 9人, 常勤換算 14.0人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45~60 千円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成19年 12月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83.0 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊豆高原クリニック ・ 安藤歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊豆高原の別荘地内に建てられた保養所を改装したホームである。改造型ホームの欠点とも言える構造上の不利を職員の動きでカバーし、逆に生活リハビリテーションに取り入れてしまう、前向きな姿勢は素晴らしい。また、四季折々の自然を楽しめる環境を生かし、散歩や外出にも積極的である。ホームには近隣の別荘に永住する人々が気軽に訪れ、朝夕の挨拶を気軽に交わす雰囲気を持っている。ボランティア等も積極的に導入し、活動や行事を重視した生き生きとした笑顔があふれるホームとなっている。今後は更に地域に密着したホームとして多機能性を生かした地域貢献、安全な場の確保のためのヒヤリ・ハットの感性磨きが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善指摘項目について職員全員で前向きに改善に取り組み、全ての項目で改善が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員に割り当てられ、評価結果を管理者が整理したものである。ホームの全員が一体となり、評価の意義を深く理解し、取り組む姿勢が出来ている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政、地域の代表等と共に、家族、利用者も参加して2ヶ月に1回実施されている。堅い議題を避け、自由に意見交換できる雰囲気を大切にしており、会議での意見は迅速に職員に伝達され、サービスの向上に生かされるシステムを持っている。行政からは市のイベント情報等が提供され、ホームからは近況が報告される。利用者や家族からはホームでの生活について生きた情報が得られており、それをホームの運営に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りとして「やまも通信、さくら通信」が発行されており、個々人の情報欄は職員が手書きしているため、家族への貴重な情報提供となっている。また職員は家族が意見を言いやすい雰囲気を大切にしている。家族の意見は日々の申し送りやユニット会議等を通じて伝達され、迅速に業務に生かされている。家族には文書によりの確に回答している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人々が朝夕気軽に訪れ挨拶を交わす習慣が根付いている。地域の行事(夏祭り、クリスマス会、運動会等)には積極的に参加し、協力もしている。また、ボランティアの受け入れやサロン活動への参加も実施しており、地域の一員としての意識を持って活動している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年までの理念に「馴染みの場所、笑顔、知識の地域還元」を加え、ホーム長、管理者、職員が一体となって取り組んでいるが、一部の書類に「地域住民との交流の下に」という概念の表現不足が見受けられた。	○	契約書や重要事項説明書等の書類は利用者、家族との交流の入り口であり、文章化されることで明確な意思表示となる。関係書類の更新が望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度、ホームでは新たに「3つの約束」として、「同じ目線で、丁寧な言葉、笑顔」を挙げており、ホームの理念の実践に向けた取り組みとしている。職員は日々のミーティングにて的確に確認し、良く理解している。またホーム全体の目標として共有しており、実践への意欲も高い。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々が朝夕気軽に訪れ、挨拶を交わす習慣が根付いている。地域の行事(夏祭り、クリスマス会、運動会等)には積極的に参加し、協力もしている。また、ボランティアの受け入れやサロン活動への参加も実施しており、地域の一員としての意識を持って活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目は、職員全員で取り組みを実施した。今回の自己評価も職員全員に割り当てられ、評価結果を管理者が整理したものである。ホームの全員が一体となり、評価の意義を深く理解し取り組み姿勢が出来ている。		
<input checked="" type="checkbox"/>	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政、地域の代表等と共に、家族、利用者も参加して2ヶ月に1回実施されている。堅い議題を避け、自由に意見交換できる雰囲気を大切にしており、会議での意見は迅速に職員に伝達され、サービスの向上に活かされるシステムを持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にて育まれた地域との良好な関係は、会議以外にも積極的な交流を生み出している。地域包括支援センターを中心に関係行政との情報交換は、ホームの運営やサービスの質の確保、地域との交流に生かされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りとして「やまも通信、さくら通信」が発行されており、個々人の情報欄は職員が手書きしているため、家族への貴重な情報提供となっている。また、管理者は介護計画の更新に合わせて家族への個別な情報提供を実施しており、家族の評価も高い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者を中心に、家族との情報交換が頻繁に実施されている。また、職員は家族が意見を言いやすい雰囲気大切にしている。家族の意見は日々の申し送りやユニット会議等を通じて伝達され、迅速に業務に生かされている。必要に応じて文書での回答も実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者と職員の相性等を良く観察し、適切に職員を配置している。また、職員同士が笑顔で業務を遂行できるよう、職員間の相性等も配慮している。職員の異動も、利用者への影響を最小限に留める範囲となるよう努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入者は行政等で実施される研修を利用することで基礎的な能力が身に付くよう配慮しており、経験者には勤務年数に合わせた研修参加を奨励している。また、内部的には職員会議やユニット会議、サービス担当者会議を研修の場として活用し、職員全体のレベルアップを図っている。職員のメンタルケアは管理者が担当している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に3回の地域包括ケア会議への参加、2ヶ月に一度のグループホーム会議等を通じて同業者との交流を図っており、イベントを実施する場合には他のホームにも声をかけている。またホーム長、管理者の交友関係から、発展した同業者との交流もホームに良い影響を及ぼしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、先ず本人や家族に見学に来て貰っている。待機者には、ボランティアが来るときなど連絡して参加を呼びかけている。入所してからはアセスメントに基づき、利用者の特性や職員との相性も考えながら、少しでも馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントや日常会話の中から利用者の得意なことを把握し、裁縫・書道・季節の料理等教えていただき、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事・お茶飲み・入浴・夜間の会話を、絶好のコミュニケーションを図る場として捉え、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人のできることに重きを置いて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント・面会時やアンケート等によって本人や家族の要望をお聞きし、関係者のアイデアを出し合い、それを反映した本人にとって最も相応しい計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1回定期的に見直されている。毎週のサービス担当者会議・急変時はその都度モニタリングを行い、現状に即した計画を作成している。変更計画は担当職員が原案を作成し、管理者・計画作成担当者がまとめている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊・緊急入院時の家族の希望に応じた早期退院等、事業所の機能を生かした柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4名の従来からのかかりつけ医希望者が居り、その意向を尊重し、ホームとの連携を図りながら、家族の送迎等のお手伝いをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル対応の重要性を認識し、状態により主治医・家族・職員の話し合いを行っているが、明確な指針やマニュアルは見られなかった。	○	ホームとしての独自のターミナル指針やマニュアルを作成し、職員が安心して対応できるよう検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	今年のホームの三つの約束は、声掛けや対応において、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないものであり、日々努力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	多彩な活動や行事の企画や日常生活プランが決められているが、決して無理強いせず、あくまでも本人の意向や希望を尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望も取り入れ、利用者・職員との手作りの料理や食事の雰囲気は、ご家族のアンケートでも高く評価されている。お手伝いや片付けのできる人、ケーキやお汁粉のおやつ作りの役割等、自然に出来上がっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いすることなく、本人の希望するタイミングに合わせ、コミュニケーションを図る絶好な場と捉え、ゆっくり入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントからの生活歴・折に触れての会話の中から、本人の役割・楽しみを把握し、出来る範囲の役割を果たして頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	観光・別荘地にあり、天気や本人の希望を尊重し、家族の協力も得て散歩・ドライブ・ピクニック等に出かけている。広い庭や1・2Fの散歩も、良いリハビリになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない意義をよく理解しており、玄関や居室には鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防災・避難訓練は実施されており、防災マニュアルもある。しかし、別荘地のため常時居住しない人も居り、自主防災組織は無い。また、ホーム内事故対策の面から、ヒヤリ・ハットへの感性磨きが必要だと思われる。	○	運営推進会議や日頃の付き合いで、近隣とは良好な関係にある。管理事務所とも相談し、非常時の連携体制を検討されたい。また、利用者のADLの低下に配慮し、ハイリッチの法則(1:29:300)を想起し、更なるヒヤリ・ハットの感性磨きに努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望も取り入れられた献立が、栄養士により作成されており、カロリー・バランスの良い食事が提供されている。嚥下能力や状態に合わせた介助も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	保養所の建物を改装したものであるが、共用空間はいずれも清潔に保たれ、季節の花やイベントの写真等が飾られていた。何より季節感を感じさせる庭の草木・小鳥のさえずり、景観等のご馳走である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1・2F、北・南と夫々居室の違いはあるが、入所の時に馴染みの品々を持参して貰っており、各居室とも居心地よく過ごせるよう工夫されている。		